

おおくま

福島県大熊町
議会だより

2019

令和元年
8月1日発行

No.50

題字 大熊中学校2年 ^{やない} 箭内 ^{しゅり} 朱里さん (平成28年度当時)



目指せ
オリンピック

県内外の小学生との交流 フロアカーリング

6月
定例会

商業施設開業11カ月遅れる 3

町政を問う 2人が一般質問 4

女川町議会と意見交換 8

サークル紹介 スイートめろん 12

動物の侵入防止 大野駅出入口にシヤッター取付

令和元年第2回定例会は6月12日から14日の3日間の日程で開催し、5議案が審議され可決しました。

一般会計補正予算では大野駅修繕、通院支援サービスなどの予算が計上されました。

大野駅自由通路追加工事

2420万円

動物の侵入を防止するため出入口にシヤッターを設置します。

また床の張替えを実施し、滑り止めを取り付け、利用する方の利便性向上と安全を確保します。

消防団屯所リース料

369万円

大川原地区にある7分団屯所の隣りに車庫を増設します。

町内での生活が始まり、初期消火対応に消防車2台を購入するため既存の1台と合わせて3台が入る車庫です。

5年間のリースで今年度は4カ月分の支出が計上されました。

通院支援サービス委託

412万円

町内からいわき市中心部、南相馬市の医療機関に送迎するサービスです。

免許証のない方や、自ら運転のできない方を対象に行うサービスで、社会福祉協議会に委託します。利用する場合は相談してください。

墓地管理事務所等基本設計委託

607万円

管理事務所、納骨堂、供養塔の建設計画で今回は基本設計を委託するものです。

バイオマス活用調査委託

1760万円

バイオマス活用事業を実施するために、どのような活用方法があるのかを調査します。

メタンガスなどの活用、施設の整備まで様々な角度から調査し事業を進めていきます。



どう変わる新大野駅

商業施設 11カ月遅れる その間仮設店舗で対応

令和元年第2回定例会にて補正予算、条例改正の審査をおこないました。その中から主な質疑内容を報告します。

交流・商業施設

問 公募型プロポーザルが3月に不調になった理由は何か。

答 参加資格要件が厳しく1社のみ公募参加となった。

その後1社との間で建物の仕様や金額で調整がつかず不調となった。

商業施設の開業が

問 令和2年3月から11か月遅れる理由は何か。

答 交流施設を一括してプロポーザルで発注したが不調となり約11か月遅れた。

その間生活に支障のないよう仮設店舗で対応する。

問 帰町した町民が生活している。日常生活に支障がないよう一括発注でなく、商業施設だけ分離発注して完成時期を早めることはできないのか。

答 現時点では分離発注しても工期はかわらないが、発注方法も含め検討してできるだけ早く完成を目指す。

駅東西口整備

問 令和4年度中に避難区域解除を目指すエリアをさらにするには、いつ頃までに地権

者との交渉を終了しなければならぬのか。

答 令和元年度中には地権者から了解を得なければならぬ。全力で対応する。

税控除

問 一団地指定エリアの税控除はどうなるのか。

答 一団地として事業が継続されている場合は年をまたいでも5000万円控除が受けられる。

また、土地建物を数回に分けて提供する場合は、その年の12月を超えて提供したときは5000万円控除対象にはならない。

※プロポーザル

業務の委託先や建築物の設計者を選定する際に、複数の企業に企画を提案してもらいその中からもっとも適した設計者を選ぶものである。



災害公営住宅に入居が始まったが…

教育委員会委員の同意

嶋貴光喜氏の辞任により欠員となっていた委員の選任を行いました。

松岡保夫氏 新任

投票により同意しました。

賛成11 反対0

任期 令和元年6月14日から

令和2年9月30日まで



大きく育て、会津村でサツマイモの苗植え。幼、小、中の合同行事

2人が一般質問

復興への課題をとらえて

ズバリ 町政を問う

1. 仲野 剛 議員 5

機能別団員・分団制度を導入すべき
震災前の施設は全て必要である

2. 加藤 良一 議員 6

集会場の整備が必要
全体方向性を明確にすべき
大熊IC周辺にパークゴルフ場を中心とした複合施設の整備を
営農再開に向けてどのような検討をしているのか

仲野

剛議員



問 機能別団員・分団制度を導入すべき

答 分団再編も含め検討委員会を設ける

仲野 役場機能が戻り

住民が生活を始めれば安全安心な生活を確保していくのは当然と思う。しかし現状では多くの消防団員が町外に避難しており、有事の際に駆け付けるには時間がかかることが予想される。いざ有事の際に町内に消防団員がいないという事態は危機管理からもあり得ない。今こそ機能別団員、分団制度を導入するべきではないか。

町長 全町避難により

消防団員も県内外に避難して活動が難しくなっている。平成22年に201人いた団員は平成31年4月には139人に減少している。住民が安心して帰還するためには、地域防災の要である消防団の組織を維持する必要がある。現在の取り組みは町職員に入団を促したり、町内の企業に消防団への協力をお願いしている。

問 震災前の施設は全て必要である

答 ニーズを把握し整備の可否や優先順位を検討

仲野 現在町内での生活が始まり、今後も居住される方が増えることが予想される。

生活をするには医療、福祉教育、産業、雇用、交通など様々なものが整い、さらには生きがい楽しみといったものも必要となる。以前の大熊町にはグラウンド、野球場、テニスコート、武道館、体育館、保健センター、文化センター、図書館、学校などの施設が整い、多くの町民が利用していた。帰町した今、震災前にあった施設はすべて必要であり、行政サービスを維持していくべきと考える。当然、規

模については議論の余地があると思う。これらの施設は、住民の交流、健康維持だけでなく、町の行事を開催するためにも必要となり、また有事の際の避難場所としても有効である。

学校についても越境通学は例外であり、どんな小さな自治体も、離島でも学校はある。町内の施設整備について町長の考えを問う。

町長 今年度に施設の被害状況を調査し、今後の利活用について検討する計画である。

現在は大川原復興拠点内にいち早く帰還した町民が生活するうえで必要となる施設を優先に整備する方針で進めている。

下野上地区の整備計画では帰町する町民や移住者、通勤者も意識した交流人口拡大につながる施設整備が必要と考えている。

公共施設は帰還や定住を判断するうえで重要な要素である。

ニーズを把握し整備の可否や優先順位を検討し、健康で豊かな暮らしに必要な設備を整備していく。

加藤 良一 議員



問 集会所の整備が必要

答 地区住民全体が交流できる施設を整備

加藤 入居が6月から始まり、今年度は第二期工事として42戸増設し、来春には92戸の大きな団地になる。

第二次復興計画改訂版には、町づくりの主要役は町民の皆さま、事業に対して「自らも参加していく」姿勢が重要と記されている。

当面は災害公営住宅に居住する人たちが主役になると思うが、そのためには人間関係の醸成が必要である。

しかし居住者が一堂に集まる場が計画されていない。

自治会の立上げも必要になると思うし、団地のイベントや趣味を生かした交流・懇親などコミュニケーションを図るうえで集会所の整備は必要と考える。

町長 自治会の立上げコミュニティ形成にあたって一堂に集まる場の整備は必要と考えている。

一方で避難指示が解除されて以降、大川原地区には公営住宅のほか、帰還された方、再生賃貸住宅、企業の従業員など多種多様な方々が生活している。

一堂に集まる場合は公営住宅入居者だけにとどまらず、大川原地区で生活する方々が広く集まり、地区住民全体が交流できる施設を整備することが重要と考える。

当面は新庁舎内の多目的ホール（おおくまホール）の活用を促し自治会の活動など推進していく。

新たな集会所の設置についても、住民の意見を丁寧に聞き取り柔軟に対応していく。

特定復興再生拠点

問 全体方向性を明確にすべき

答 地権者に解りやすく示していく

加藤 先行する駅を中心とした下野上地区整備計画は、駅東西口と下野上地区に一団地として3つのエリアを結び計画とその周辺を囲む5つの構想エリア約100軒からなる広大な整備計画である。

解除時期は2022年3月とすべて同じ時期を目指しているが、土地の活用方法は一団地に指定された3つのエリア以外の取り扱いが明確に決まってい

ない。

5つの構想エリアは一団地として整備していくのか。また家屋解体後に一団地として指定された場合は遡及するのか。

加えてそれ以外の地域の解除時期も同じであり解除後に一団地指定はあるのか取り扱いは全体方向性を明確にすべきと考える。

町長 この制度は、一団地の復興再生拠点市街地形成施設として定め、緊急性もあるが用途設定を行う上で明確な利用目的が必要である。

町民の帰還や定住、企業の進出などの見込みが重要であり、復興庁の意向調査による町民の帰還や事業再開などを見ると5つの構想エリア全域を町が面的に整備することは難しい。

今後の帰還状況や町内の変化を見ながら、町民や移住希望者のニーズを把握し、一団地の規模や配置や時期を十分に検討しながら進めていきたい。

また全体方向性については特定復興再生拠点の地権者に解りやすく示していきたい。

また全体方向性については特定復興再生拠点の地権者に解りやすく示していきたい。

第二次復興計画 3年毎進捗管理

令和元年5月17日に委員会を開催し、出納室・総務課・企画調整課・教育総務課より今年度の重点施策について調査しました。主な内容を報告します。

企画調整課

町を取り巻く環境の変化に対応するため、第二次復興計画を改訂したが3年毎に各事業の進捗管理を行います。下野上地区整備基本設計は施設内容、規模等を計画するため関係団体企業等へヒヤリングを行っていくなどの説明がありました。

委員からは第二次復興計画に記されている交流ゾーン整備は町民の生活に支障をきたしていることから、工期

委員からは施設被災の判定後速やかに新たな施設の整備計画を

の短縮を図るべきである。

地域巡回バスは、運行後に町民より意見を聴取し運行見直しも含め柔軟に対応すべきとの意見がありました。

総務課

帰還困難区域にある大野小学校ほか20施設の健全性などを調査し利用の有無を判定します。

示すべきとの意見がありました。

教育総務課

町の文化財保全対象調査をして損失が危惧される資料を収集し、一時的に町公民館へ仮保管するとの説明がありました。

委員からは文化財収集は重複する物品の収集は避けることや、特定復興再生拠点内文化センター等施設の活用は解体も含め早く判断すべきとの意見がありました。

やすらぎ霊園今秋開設

令和元年5月15日に委員会を開催し、所管課より今年度の重点施策について調査しました。主な内容を報告します。

環境対策課

やすらぎ霊園の進捗率は80%程度の進捗状況で今秋には開設するとの説明を受けました。

委員からは給水所は各区分に1カ所を設置すること。防火対策と工期厳守の要望がありました。

産業建設課

いちご工場では今後30人の臨時職員が必要である。

また鳥獣駆除対策として駆除隊編成を検討する。

委員からはいちご栽培施設の臨時職員は、住民も含めて人材を確保するためには早めの対応が必要である。

復興事業課

頭森公園の線量測定およびモニタリング、遊歩道整備についての説明を受けました。

また、来年4月常磐線全線開通に向けて大野駅および連絡通路の修復工事が進められている。開通に間に合わせるために格段のスピードアップを要望していく。

委員からはため池除染には色々な除染方法があると思うが、頭森ため池では水を抜いて汚泥を直接フレコンパックに詰める方が確実と思われる。事業主体は県であるが復興のためにも提言してみてもどうかとの意見がありました。

女川町 型にはまらない 柔軟な発想と実行力が大切

令和元年6月27日から28日にかけて、震災による復興が進む宮城県女川町、石巻市、南三陸町、東松島市、仙台市、名取市の6市町を視察、意見交換をしてきました。

女川町では、甚大な被害を受けた町の復興計画や現実の歩みを町議会議員や町の担当者らと意見交換を行い、復興のスタートラインに立った町の今後に対する知見を得てきました。

多様な外部の人を受入れる

女川町は町の中心部（へそ）に都市機能を配置、人の流れを意識的にへそへ集約し、将来的な人口減少も見据えたコンパクトなまちづくりを計画、幹線道路に沿った施設整備を進めています。

女川駅周辺には若者の意見がふんだんに取り入れられ、復興のシンボルと言える駅舎および周辺の商業施設整備に対して特に強い思いが込められているように感じました。

女川町ではまちづくりを進めていく中で、よそ者、若者、ばか者の一つの方針のもと、多様な外部の人、これからの町を担っていく若者、型にはまらない柔軟な発想が大切であるとの考えから、ポランティアの移住や、おためし移住など積極的に外部の人を受け入れています。

視察したどの地区も自然と調和した景観を損なわないコンパクトなまちづくりを進めておりこれらの施策を大熊町のまちづくりに取り入れていきたいと考えています。

女川町との意見交換

問 大熊町では仮設住宅から公営住宅へと替わってコミュニケーションが取りづらく閉じこもっている人もいます。

答 女川町でも仮設住宅や災害公営住宅など4回替わっている。それぞれに自発的にイベントを組み交流を行ってきた。

全員が被災者であり被災者同士が寄り添い趣味や年齢に合わせたコミュニケーションをやってきた。

問 よそ者、若者、ばか者と呼ばれる人達の声を施策にどう反映させたのか。

答 震災前の女川町は保守的であった。震災後は、移住者やポランティアなど町外からの人を積極的に受け入れ、その人たちの意

見を広く聞き、新しいまちづくりのために取り入れた。

問 大熊町に戻った多くの町民が高齢者で医療、介護に不安を持っている。

答 医療については、唯一の医療センターも津波により一階部分が浸水したが、医療機関確保のため、いち早く復旧させ、医療活動を再開させた。

また介護についても女川町は元々高齢化率が高く、介護施設の需要が高かったため特養施設の復旧整備を最優先させ再開させた。

生活の安心に繋がる医療、介護施設の整備は重要であり最優先に取り組んだ方が良いと思う。



観光の目玉となる商業施設



新庁舎で初めての議会

読みやすく解りやすい 議会だよりを届けて50号

石原環境大臣850億円を提示 2014年11月発行



議会だより50号にあたり
平成20年5月に第1号を発行し今回で50号を迎えました。
表紙の題字は小中学生から公募し、写真は広報公聴委員自ら取材に行き「子供たちの笑顔」をテーマに掲載してきました。
今回は50号を記念し30号からの表紙を紹介します。これからも読みやすく解りやすい情報を届けてまいります。
広報公聴常任委員長 阿部光國

災害公営住宅50戸建設予定 2016年11月発行

みんなで心を一つに がんばろう! おおくま

おおくま

福島県大熊町議会だより
2015 発行10月号 No.34

題字 大野小学校6年(平成22年度当時) 遠藤由貴さん



シャボン玉 飛んだ〜!

暑いのもへっちゃら!

大熊町議会の顔たち

6月定例会

- 1 アクセス道路調査はじまる
- 2 スパリ町政を問う 6人が一般質問
- 3 支援に感謝と御礼
- 4 もっとお話し聞かせてください

2015年8月1日発行(No.34)

みんなで心を一つに がんばろう! おおくま

おおくま

福島県大熊町議会だより
2015 発行7月号 No.33

題字 大野小学校5年(平成22年度当時) 山岸花音さん



ほくも、わたしも、みんなピカピカ

大熊町立大野小学校入学式

3月定例会

- 1 議員や町長の発言が見れます
- 2 167億4000万円過去最大の当初予算可決
- 3 町土復興・生活再建支援
- 4 5人が一般質問 復興の課題をとりあて

2015年5月1日発行(No.33)

みんなで心を一つに がんばろう! おおくま

おおくま

福島県大熊町議会だより
2015 発行1月号 No.32

題字 大野小学校5年(平成22年度当時) 宮本 真衣さん



あやわめり またあやわめり

12月定例会

- 1 具体策をまとめ町へ提言
- 2 建設受け入れ判断を了承
- 3 いわき市に町民交流施設開設
- 4 町政を問う 2人が一般質問
- 5 早急な協議を 区長ととの意見交換会

2015年1月15日発行(No.32)

みんなで心を一つに がんばろう! おおくま

おおくま

福島県大熊町議会だより
2016 発行5月号 No.37

題字 大野小学校6年(平成22年度当時) 藤田 莉乃さん



希望を胸に 元氣よく

大熊町立大野小学校入学式

3月定例会

- 1 183億4000万円 過去最大予算可決
- 2 好評だった生活応援物資、毎年継続を
- 3 5人が一般質問 復興の課題をとりあて
- 4 国が責任を持って収束させる
- 5 1歳になりました 橋本おおくまの会

2016年5月1日発行(No.37)

みんなで心を一つに がんばろう! おおくま

おおくま

福島県大熊町議会だより
2016 発行1月号 No.36

題字 大野小学校6年(平成22年度当時) 橋本 真衣さん



笑顔で新年 元氣いっぱい!

大熊町議会の顔たち

12月定例会

- 1 コールセンター業務に4532万円
- 2 新しい議会体制決まる
- 3 スパリ町政を問う 5人が一般質問
- 4 二人が表彰受ける(大熊町ソフトボール協会)

2016年1月15日発行(No.36)

みんなで心を一つに がんばろう! おおくま

おおくま

福島県大熊町議会だより
2015 発行11月号 No.35

題字 大野小学校5年(平成22年度当時) 藤田莉乃さん



みんないい顔してるね

大熊町立大野小学校入学式

9月定例会

- 1 震災前と比べ基金積立て184億円増
- 2 消防団定員216人に167人に改正
- 3 スパリ町政を問う 2人が一般質問
- 4 議員定数が14人から12人へ
- 5 サークル紹介(熊1区すみれ会)

2015年11月1日発行(No.35)

みんなで心を一つに がんばろう! おおくま

おおくま

福島県大熊町議会だより
2017 発行2月号 No.40

題字 大野小学校6年(平成22年度当時) 斎藤 梨穂さん



ママと飾りつけ 楽しいね!

大熊町議会 リースづくり教室から

12月定例会

- 1 給付型奨学金創設へ
- 2 スパリ町政を問う 5人が一般質問
- 3 新たな基金の創設
- 4 サークル紹介

2017年2月1日発行(No.40)

みんなで心を一つに がんばろう! おおくま

おおくま

福島県大熊町議会だより
2016 発行11月号 No.39

題字 大野小学校6年(平成22年度当時) 青山 朝陽さん



ほくどママと一緒にゴール うれしい!

大熊町立大野小学校入学式

9月定例会

- 1 医療給付費震災前の1.8倍
- 2 24時間体制でパトロール
- 3 買い取り方式で整備が進む
- 4 スパリ町政を問う 3人が一般質問
- 5 町営住宅は50戸建設予定

2016年11月1日発行(No.39)

みんなで心を一つに がんばろう! おおくま

おおくま

福島県大熊町議会だより
2016 発行8月号 No.38

題字 大野小学校6年(平成22年度当時) 笠岡 結衣さん



うちの子どもたち キラキラしてまーす

大熊町議会

6月定例会

- 1 中屋敷地区70m深井戸で対応
- 2 スパリ町政を問う
- 3 24時間体制で万全をつくる
- 4 新しい仕組みの夏に方向性示す
- 5 設立し半年になりました 北浜グループ

2016年8月1日発行(No.38)

新庁舎建設はじまる 2017年5月発行

みんなで心を一つに がんばろう! おおくま

おおくま

福島県大熊町議会だより

2017年 第43号
発行日 11月1日

題字 小野 幸子 (平成28年度当時)

9月 完成予定

- ① 基金 新しい町づくりに活用
- ② 町政を問う 復興への課題をどうとらえて
- ③ まちづくり公社設立
- ④ 仮設焼却炉 大熊町を優先に
- ⑤ 町政を問う 復興への課題をどうとらえて
- ⑥ 町政を問う 復興への課題をどうとらえて

2017年11月1日発行(No.43)

みんなで心を一つに がんばろう! おおくま

おおくま

福島県大熊町議会だより

2017年 第42号
発行日 8月1日

題字 大熊中2年 西川 駿花さん

6月 定例会

- ① 町内食堂利用助成
- ② 大臣発言重い、約束を果たす
- ③ 町政を問う 2人が一般質問
- ④ 生まれわたりのひよっこです ふるさとおくま会

2017年8月1日発行(No.42)

みんなで心を一つに がんばろう! おおくま

おおくま

福島県大熊町議会だより

2017年 第41号
発行日 5月1日

題字 小野 幸子 (平成28年度当時)

2年連続大型予算
新庁舎建設はじまる
4人が一般質問
新たな議事決まる

2017年5月1日発行(No.41)

みんなで心を一つに がんばろう! おおくま

おおくま

福島県大熊町議会だより

2018年 第46号
発行日 8月1日

題字 大熊中2年 土橋 美穂さん (平成28年度当時)

6月 定例会

- ① まちづくり公社へ5000万円出資
- ② 町政を問う 4人が一般質問
- ③ 国道288号線の拡幅を和気あいあいと楽しんでいます

2018年8月1日発行(No.46)

みんなで心を一つに がんばろう! おおくま

おおくま

福島県大熊町議会だより

2018年 第45号
発行日 5月1日

題字 小野 幸子 (平成28年度当時)

3月 定例会

- ① 施設整備に117億3000万円
- ② 町営住宅 平成31年5月完成
- ③ 町民生活の安全を守る
- ④ 町政を問う 5人が一般質問

2018年5月1日発行(No.45)

みんなで心を一つに がんばろう! おおくま

おおくま

福島県大熊町議会だより

2018年 第44号
発行日 2月1日

題字 小野 幸子 (平成28年度当時)

12月 定例会

- ① 大野駅改修始まる
- ② 町政を問う 2人が一般質問
- ③ 新しいまちづくりへ 除染始まる
- ④ サークル紹介 おおくま町会

2018年2月1日発行(No.44)

みんなで心を一つに がんばろう! おおくま

おおくま

福島県大熊町議会だより

2019年 第49号
発行日 5月1日

題字 小野 幸子 (平成28年度当時)

3月 定例会

- ① 平成31年度予算263億5000万円
- ② 生活再建促進交付金制度創設
- ③ 町政を問う 5人が一般質問
- ④ サークル紹介 もみの木

2019年5月1日発行(No.49)

みんなで心を一つに がんばろう! おおくま

おおくま

福島県大熊町議会だより

2019年 第48号
発行日 2月1日

題字 大熊中2年 三瓶 真真さん (平成28年度当時)

12月 定例会

- ① 医療福祉施設 11億4877万円
- ② 町政を問う 2人が一般質問
- ③ 288号線拡幅実現へ
- ④ サークル紹介 茨城おおくま友の会

2019年2月1日発行(No.48)

みんなで心を一つに がんばろう! おおくま

おおくま

福島県大熊町議会だより

2018年 第47号
発行日 11月1日

題字 小野 幸子 (平成28年度当時)

9月 定例会

- ① 交流・温浴施設整備
- ② 下水道復旧点検調査始まる
- ③ 町政を問う 4人が一般質問
- ④ 小さな出会いを大きな希望に

2018年11月1日発行(No.47)

今日一日を楽しみ 明日への力へ スイートめろん



千葉県房総で花つみを体験しました

今年3年目を迎えるスイートめろん。これから故郷となる茨城の名産が由来です。恒例のサツマイモ掘り、ボウリング大会、日帰りバス旅行には、福島・茨城・千葉県と広範囲から参加されています。

今年の秋には山梨方面のバス旅行を予定しています。

楽しむ事を皆で計画しおおくま愛を忘れずに1歳から80歳代、世代を超えた交流をしています。

会長 梶原美智雄

事務局 星川美智子(☎080-5229-2006)



笠間稲荷神社にて



世代を超えた交流をしています

新庁舎での議会 傍聴に来てください

9月定例会は9月10日から開催の予定です

発行責任者	委員	副委員長	委員長
鈴木光一	松永秀篤	堀川巨夫	加藤良一
		木幡ますみ	佐藤照彦
		仲野剛	阿部光國

広報公聴常任委員会



堀川巨夫議員 鈴木光一議員 加藤良一議員

震災以降8年間、町の復興に役割をいたしました。

福島県町村議会議長会
から3人が表彰